

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

大阪市

学校名

大阪市立北津守小学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等全学年
生活・総合、社会

時数等

全12時間

目標・人権教育のねらい

地域にある施設の見学や地域の人との交流、地域産業の学習を通して、地域の人たちの思いや町のすばらしさに気づき、愛着がもてるようにする。また、友だちと協力することの大切さに気づき、よりよい関係を築こうとする態度を育てる。

実施した内容

- ・「西成区の歴史について」出張授業(5・6年)
- ・地域の工場見学(4・5・6年)
- ・和太鼓体験(全学年)
- ・隣保館の職員による、人にやさしい町づくりと人権啓発の取組についての聞き取り学習(6年)

工夫した点

- ・「西成区の歴史について」の出張授業では、区の歴史の理解を深め次世代に伝えていくことを目的とした「西成情報アーカイブネット企画運営事業」を実施している西成区役所の協力を得て実施し、本校周辺の歴史にしばって学習することができた。
- ・地域の工場見学では、校区内にある身近な工場を見学することで、自分たちの住む地域に親しみ、愛着をもつことにつなげるようにした。
- ・地域の和太鼓集団を招いて、学習を行った。革を扱う職業に対する忌避意識があった歴史について話を聞くことが出来るようにした。土曜参観で実施し、保護者の参加ができるようにした。
- ・5年では革の張替え工場の見学のと、実際に学校で使用している長椅子の革の張替えを体験した。
- ・隣保館の職員から話を聞くことを通して、様々な福祉の取り組みが行われていることを知り、子どもたちは自分たちが住む地域のすばらしさについて感じられるようにした。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

- ・6年社会科「江戸時代の身分制と人々の暮らし」
- ・5年社会科「工業生産とわたしたちの暮らし」

事業成果

・「西成区の歴史について」の出張授業では、進学先中学校校区内にかつて屠場があり、洗浄などで地域に流れている木津川が使われていた歴史を知った。また、牛をさばく仕事をする人に対する偏見や差別があったことを学び、社会科での学習とリンクして考えることができた。屠場で長年働いてきた人の話の動画では、人間が命をいただいていることを改めて考えることを通して、物を大切にすることについて自分の生活を振り返るきっかけとなった。声以外捨てるところがないといわれる牛にかかわる仕事に携わり、人の役に立つ仕事であるという誇りを持っているという話を聞くことができた。

・地域の和太鼓ユニット「心」のみなさんの演奏を聴いた。また、今では世界からも認められている太鼓であるにもかかわらず、皮革の仕事に対する差別があることや、住むところで差別する部落差別などが今もあるという話を聞いた。あらゆる人権問題をなくす気持ちをもって太鼓を打ち続けているという話を聞かせてもらった。また、子どもたち一人ひとりが太鼓を打つ体験をすることができた。

・校区内にある革張り工場の見学を通して、仕事は多くの役割を持つ人たちの協力で行われていることや、会社が大事にしているAGH（明るく・元気に・ハキハキと）を知り、仕事をすることのすばらしさを子どもたちが実感することができた。



令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市等名

大阪市

学校名

大阪市立北津守小学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

全学年 生活・総合

時数等

全3時間

目標・人権教育のねらい

- ・世界にあるいろいろな国の文化にふれ、ルーツがある友だちがいることを知るとともに、違いを認め合いお互いに尊重し合い、共に学び合おうとする集団を育成する。
- ・外国人児童の自身のアイデンティティの自覚と誇りを高める。

実施した内容

- 1・2年「ちがいはまちがい？」
3・4年「自分とはちがうものと出会うときに」
5・6年「友だちの文化を大切にする、とは？」

工夫した点

- ・講師を招聘し、上記内容について、対話形式の学習を実施した。本校教職員も全員参加し、児童の学習とともに教職員の研修の場ともなった。
- ・本校には来日等の外国につながる児童が多数在籍している。そのため、学習の事前アンケートとして、来日した児童が日本の小学校に来て感じたことを聞き取り、講師と共有し、当日の学習内容に活用した。
- ・ワークショップ当日に使用するプレゼンテーション資料についても、在籍する児童の国籍など学校の現状に即したものになるよう連携しながら作成した。

令和 6 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

全学年 道徳「生きる力」：内容項目〔国際理解・国際親善〕

事業成果

1・2年「ちがいは まちがい？」

・導入段階では、犬と猫のちがいなど、身近にある同じとちがいを考えて、見方によって似ているところもあるし、ちがうところもあることについて考えた。その後、日本と中国の学校生活のちがいの話を聞いた。子どもたちは、中国では給食のおかずの種類が多いことや、午睡の時間があることに驚いていた。学習を通して、子どもたちは「ちがいはあって、あたりまえ」「見方によってかわる」「ちがっていることは素敵なこと」だと感じる事ができた。



3・4年「自分とはちがうものに出会うときに」

・外国から転入生が学校に来た時、どのような出会い方をするか練習することを目標として学習を進めた。文化は、「人」によってちがうことを意識したうえで、その中でも国や宗教によるちがいもあるという話を聞いた。食文化やトイレ、学校のちがいについて話を聞いた。特に食材のちがいでは、ヨーロッパではザリガニがパーティーで出されること、逆に日本では「たこ」を食べるが、外国では「デビルフィッシュ」という別名があることについて知るなど、「ちがいに会う」体験をした。まとめとして、ちがいによる衝突があり困ることが起こった時に解決できる力は、お互い両者がどちらも大切にしようとする気持ちであることを学習した。



5・6年「友だちの文化を大切にする、とは？」

・「友だちの文化を大切にする」ことを、自分の言葉で説明できるようにすることをめあてに、学習を進めた。様々なちがいや、国や宗教によるちがいも知った後、文化のちがいを受け止めるロールプレイを行い、どのようなリアクションをすれば、相手に受け止めているという思いを持ってもらえるか意見交流を行った。学習を通して、本校のようにグローバル化の中で、異なる文化を持つ人と出会い、どのように受け止め、大切にするかについて考えることができた。